

「令和元年度 配慮を必要とする子どもの保育研修会」報告書

【期 日】	令和元年 10 月 23 日 (水)
【会 場】	メートプラザ佐賀
【主 催】	佐賀県保育会
【参加者数】	99 名
【内 容】	研修 1 10:00~10:30 研修 2 10:30~12:00 / 13:00~16:00



研修 1 「基調報告」 講師 指山 健次郎 氏 (佐賀県保育会 会長)



◆保育を取り巻く状況

①施設数や待機児童について

- ・ H27 年の子育て支援制度の開始により、認定こども園、特定保育型施設の増加。
- ・ 女性の就業率の増加により、保育園利用率も上昇傾向。
- ・ 待機児童も減少傾向であるが、0,1,2 歳児の割合が圧倒的に多い。
- ・ 子育て安心プランで保育の受け皿を拡大、5 歳児の待機児童が 2 万人おり、国としての施策も考えられている。

②保育士不足

- ・ 「新規資格取得支援」「就業継続支援」「離職者の再就職支援」に取り組む。
- ・ 年々保育士数は増加し H25 より年収も増加しているが、さらなる待遇改善策が必要。
- ・ 人材不足の原因・理由
 - ① 責任の重さ・事故への不安、就業時間が希望と合わない
⇒入職に対する不安を取り除くサポート体制や就業時間への配慮が必要。
 - ② 賃金が希望と合わない、休暇が少ない・取りにくい
⇒処遇改善や勤務環境の改善に取り組み、職場としての魅力を高めることが必要。

③幼児教育・保育の無償化

- ・ 2019 年 10 月より、3~5 歳児の保育料が無償化となる。
ただし、主食費・副食費については徴収。

◀ 感想 ▶

保育を取り巻く現状として、待機児童問題等がデータによるグラフで分かりやすく示された。その中でも、保育士資格を有していても半数近くが就業を希望していない、早期離職傾向であるとのデータがあり、人材不足の厳しい原因・理由が突き付けられた。処遇改善は必須であるが、魅力ある職場作りをすることも私達の使命であると考えている。

◆発達障害とは

自閉症・アスペルガー症候群とその他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢によって発現するもの。

…知能の遅れはないこともあり、見た目は健常児と見分けがつかないことが多くわがままやしつけがなっていない、そのうち良くなると考えられることがある。

…脳の中は長距離運転をしている時のような覚醒の状態が悪い状況。

有効な働きかけ⇒筋肉を使うような運動をする。

⇒睡眠が大事。8時間以上しっかり夜寝かせる。

◆支援する者と親の心構え

・気になる子は「耳が優位」なのか「目が優位」なのか早い段階で見極める。

・ネガティブアプローチより、ポジティブアプローチで！

褒める・認める・信頼する…できるだけ叱らない工夫をする

・1行動、1指示を徹底する。

・支援する側と親の発想の転換が必要。

◆医療的配慮の必要な子どもの保育

・血液媒体疾患（B型肝炎やH I V） ・食物アレルギー ・喘息

・アトピー性皮膚炎 ・心臓の病気

☆保育園における衛生管理

①鼻血、傷の処置は素手で行わない。

②入園時健康調査でしっかり確認、把握する。

③職員のB型肝炎ワクチン接種促し。

④衣類・リネンの共有はせず、次亜塩素酸ナトリウムで消毒する。

⑤キャリアの児の唾液付着玩具は次亜塩素酸に10分浸水し、洗浄、乾燥。

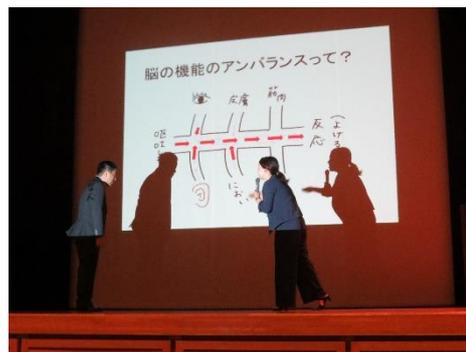
☆アナフィラキシー

・すべての臓器がおかしくなる。 理論上、2回目以降に起こる。

離乳食指導では、初めての食材は自宅で2～3回食べてから。

・対応する注射…エピペン 迷わず、ためらわず、とにかく打つ！

ためらいが命を落とす一番の原因



◀ 感想 ▶

「配慮を必要とするこども」として発達障害の特徴や医療的配慮の必要な子の対応について、丁寧な解説がなされた。気になる子の特性を早く見極めることが大切で、それぞれの対応の仕方により、二次障害、三次障害を防ぐことが出来る。また特性を理解することでポジティブアプローチをし、適切な支援をすることも必要である。

今後、様々な特性を持った子どもたちの受け入れをしていく上で、念頭においておくべき重要な事柄を教えていただき、非常に学びの多い研修であった。

文責 伊万里地区 立花保育園 吉田かおり